



学校通信

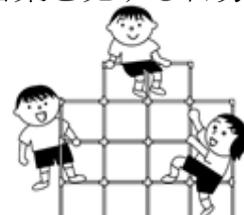
令和5年度 第2号
令和5年 5月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 岡部 良美

『遊び』と『学び』の中に『喜び』が

校長 岡部 良美

新しい学年での生活が始まり一ヶ月が経ちました。学習や学校行事、級友や異年齢との関わりを通して、子供一人ひとりがよさを発揮して過ごした4月でした。子供の今を認め、変容の大小にかかわらず受け止め、褒めて、子供一人ひとりが誇りと自信をもつことができる教育活動をこれからも徹底して進めていきます。

さて、『遊び』について考えてみます。「お外で楽しく遊びましょう」「広場や公園で元気よく遊んでいらっしやい」。子供が小さい時には、いつもそう語り掛けていたのではないのでしょうか。そんな子供たちに、いつの時点からか、「そんなに遊んでばかりいてどうするの?」「勉強は済んだの?」等と言うようになってきたのではないのでしょうか。子供たちに話し掛ける言葉で、「外で遊んでいらっしやい」という『遊び』を容認していたはずの自分から、「勉強しなさい」という言葉を発する自分になったのはいつ頃なのでしょう。子供をもつ保護者であればそうした経験は、誰にでもあったはずです。



『遊び』とは、実は、失敗の連続活動なのです。

失敗を繰り返しても楽しいから、何回も何回もチャレンジするのです。

クリエイティブな考えや新製品は、そうした失敗や挫折を繰り返して生み出された所産なのです。何事も最初からうまくいくことはほとんどありません。それを知る場が『遊び』なのです。その『遊び』の中で、いろいろと試行錯誤や工夫等をして、やがて成功していく過程こそが、『学び』の醍醐味です。

『失敗は成功のもと』という諺があります。失敗したら、その原因をよく見極めて反省し、同じ失敗を繰り返さないように心掛ければ、成功への道が開けるという意味があります。

『失敗は成功の母』とも言います。失敗は、成功を生み出すからです。日本だけではなく、外国では、**Failure teaches success. (失敗は成功を教える)**と言います。子供を育てる中には、失敗を経験させて学ばせ、本物にしていく目標があると思います。『遊び』を通して『学ぶ』。その両者に、大人の励ましや支えを感じている時、チャレンジしている子供は『喜び』を感じていることでしょう。

保護者や地域の皆様には、子供の今を認め、行動や学びを共感的に受け止めていただき、開三小の子供たちが教育目標に示した、『誇りと自信をもち、社会の創り手となる』資質と能力を育めるよう、学校と共に協働をお願いいたします。